ハロー

本来年間一括で支払う保険料が年3回分割できます。

クなどで行う新規雇用や離職の手続き、

労

事業主やその家族も労災に加入できます。

険事務組合

へ委託すると3

つの特典があります

民商には便利な事務組合があります

民商では労働保険の事務組合を運営しています。

労働保

F T W 田市 (06) 6382 - 8190(06) 6383 - 2211

suita-ms@jasmine.ocn.ne.jp http://www.suita-minsyou.com

な昼 週 夜

日本の政党はいつまで公約違反を繰り返すのか

安倍政権のTP

P

交渉参加表明に強く抗議する

ても大幅な規制緩和を行うものです。 0 PPは関税を撤廃するだけではなく、 安倍首相は 以関税を撤廃するだけではなく、非関税障壁につい日本が交渉に参加することを正式に表明しました。 3 月 15 日、 TPP(環太平洋連携協定)に

確実です。 すぎます。 大地で収穫された穀物や肉などの量が大幅に減ることは農業分野では価格が下がると喜ぶ人もいますが、日本の 自然に依拠して食料品やエネルギーを生産することです。 は荒れてしまいます。農業の分野だけ見ても失う物が大き は難しくなります。 とも困難です。 量の農薬が使用されており、日本の安全基準が守ら それに干ばつなどの自然災害があれば、輸入品の購入 食料と健康と国土とエネルギーを守る。そのことが失 次産業(農林水産業)を国の基幹産業に育成すること 輸入食料品には長期間の保存を実現するため大 原発事故を経験した私たちが進むべき方向は、 健康破壊が進行することが危惧されていま そのうえ食料品の生産が減れば、 れるこ 国土

> 道であり、 国づくりが今こそ求められています。 業を減らし、 国の未来を危うくするものです。 雇用と経済の安定にもつながる。 TPP参加は真逆の このような

した。 民党が、政権につくと 3 ヶ月で公約を投げ捨ててしまいま 敗して政権を失ったのは消費税を公約に反して増税した それを昨年12月の総選挙の公約にしたのです。民主党が大 民党は昨年 ない重大な問題が数多く含まれています。だからこそ、 からです。 その他にも国民生活に直結し、国の主権を揺るがし これほど有権者を愚弄する政治は許されません。 その選挙で、 3月にTPPに対する6項目の政策を発表 TPPについて「反対」とした自 自 l

強め、 約違反に強く抗議し、撤回を求めます。学習や話し合いを 吹田民主商工会は安倍政権のTPP交渉参加表明と公 その危険性を知らせ、 反対世論の形成に力を尽く

労働保険、 従業員を雇用され いる事業所は加入-しま しよう。

災害または通勤途中の災害によって負傷をしたり 険と雇用保険とを総称した言葉です。労災保険は業務上の入しなくてはいけません。労働保険とは労働者災害補償保ていれば、業種、規模のいかんにかかわらず労働保険に加従業員(アルバイト・パートを含む)を1人でも雇用し めに必要な保障をしてくれる社会保障制度です残ったり、死亡した場合に、労働者やその遺游 死亡した場合に、労働者やその遺族の保護のた 障害が

もし労災未加入の状態で、 労災が起きた場合

員を雇用されている事業所は労働保険に ことになります。大きい金額の負担にならないよう、 事業主に対する費用徴収制度として強化されてい ます。この法律は平成17年11月から、 額の全額又は40 のと認定され、保険給付額の全額の金額が費用徴収される て、 遡って保険料を徴収する他に、労災保険給付を受けた金 労災保険加入手続きを労働基準監督署から始動されて 加入を怠っていた時に「故意」に手続を行わないも %を事業主から徴収することにな 労災保険未加入の 加入しまし 、ます。 0 従業 7

> 従業員がいる方は、 災保険の手続き、 間が省けます。 保険料の申告や納付などの事務の手 民商の事務組合への委託もご検討く

ださい。

労働保険・ 社会保険の基礎講座

日時 4 月 10 日 月 9 日 (水) 昼 2 時 00 00 分分

場所 民商会館

講師 上田 純次 社会保険労務士

時の手続き・社会保険の制度について 労災事故発生時の対応・雇用保険の新規雇用 と離職

伝言板

経営交流会・お店訪問

竹田さん作成の事業計画書を学び交流3月26日(火)夜7時30分 美容室 美容室P します。 a O Р

住民税と国保料の減免・分納相談会(要予約)

平成24年分の確定申告書、3月26日(火)昼1時30 昼 1 時 30 分 印鑑をご持参ください 市役所ロビー 集合

消費税の申告、

月 29 日 (金))昼1時30分 メロー 滞納税金の分納相談会 ド前集合

お買 物は地元 の市場商店街で 商工業者の繁栄は市民とともに